

# 乾燥種子標本の収集・活用

## 種子標本の収集と保存

貴重な野生植物の種子収集保存事業と同時に、人と自然の博物館では日本産野生植物の種子標本の収集も積極的に行っています。漂着散布体を中心とした中西コレクション、近畿地方産野生植物からなる藤井コレクションを母体に、ジーンバンク事業で収集された種子の一部を証拠標本として保存し、7000点、2000種の種子標本を収蔵しています。



収蔵状況

開館当初から20年余りにわたって収集・保管してきた乾燥種子標本を今後も適切に保管すると共に、展示やセミナー、キャラバン事業などでの標本の利活用を図っていきます

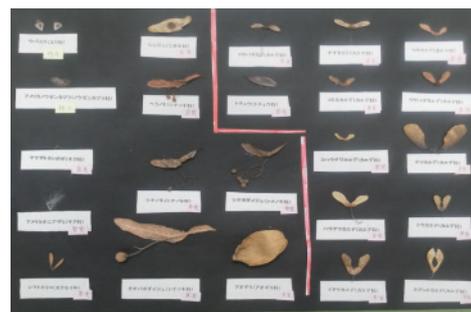
また、収集活動の継続や寄贈標本の積極的な受け入れ、他施設との標本交換などを行うことで標本のさらなる充実化を行います。



## 種子標本の利活用

収蔵された標本は様々な形で利用されています。例えば動物の糞から得られた種子の同定に使われ、動物の食性についての詳しい解析が可能になったり、埋土種子との照合により過去の植生の復元に活用されたりしています。またヨーロッパのハーバリウムに保存されていた100年以上前の標本から取り出された種子が発芽したとの報告もあり、絶滅種を既存の標本から再生する可能性も指摘されています。

博物館では、収集された種子標本を様々な形で教育普及活動に利用しています。展示やセミナー、キャラバン事業などで実物標本を利用することで、来館者が種子や果実に興味を持つきっかけをつくったり、より詳しく学習するための様々なコンテンツを作っていくための基礎的な標本としての利活用を進めています。



果実の標本展示の一例



乾燥種子標本の収集・活用

代表者：藤井俊夫

分担者：石田弘明・橋本佳延・黒田有寿茂・大谷雅人

協力者：

財源：研究部研究費（再生研究部）・資料整理同定費（再生研究部）